

## 令和 5 年(第 17 回)みどりの学術賞 受賞者

はるしま くらた  
春島 (倉田) のり (72 歳)

国立遺伝学研究所名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授

功績概要：「イネのゲノム情報基盤の確立と生殖・多様性研究」に関する功績

国際連携によるイネゲノムプロジェクト研究に参画し、イネの遺伝地図作成等ゲノム解読に大きく貢献するとともに、ゲノム情報が整ったイネを用いて、生殖器官発生や生殖隔離で働く遺伝子の機能を解明した。また、世界各地から収集した栽培イネと野生イネのゲノム解析により、イネの栽培化の起源地や、その起源地の野生種から現在日本で栽培されているジャポニカ種が生まれたことを突き止めた。さらに、熱帯や亜熱帯地方で収集された野生イネ 21 種にわたる約 1700 系統の整備及び分譲体制を確立し、それらの多様性と進化研究を進め、イネの多様な品種改良の研究基盤構築にも精力的に尽力するなど植物研究者のコミュニティの発展に寄与した。これらの成果により、食糧の安定的な生産につながる植物科学や植物遺伝学の発展に大きく貢献した。

つむら よしひこ  
津村 義彦 (63 歳)

筑波大学生命環境系教授、筑波大学山岳科学センター長

功績概要：「森林樹木の遺伝的地域性の解明と森林の遺伝的保全管理への展開」に関する功績

我が国の主要樹種について、分子集団遺伝学的手法を用いて遺伝的地域性を解析し、遺伝的多様性が東日本は相対的に低く、西日本は相対的に高いことなど、我が国の森林の成立過程や森林樹木の遺伝的地域性を明らかにした。また、熱帯材から DNA を抽出し樹種識別する技術開発を主導するとともに、集団遺伝学的分析によって産地識別できる樹種も明らかにした。さらに、国際林業研究機関連合のコーディネータや森林遺伝育種学会長を務め、国内外の森林生態系保全に向けた研究の進展に尽力した。これらの成果により、森林資源の持続的な利用のためには森林の遺伝的な保全管理が重要であることを提言し、種苗移動に関する遺伝的ガイドラインの社会実装にも取り組み、国内外の森林の保全に大きく貢献した。

(年齢は令和 5 年 3 月 10 日現在)